HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	Column 世界の調査 / 日本の調査　台湾社会変遷基本調査（TSCS）
Author(s)	寺沢, 重法
Citation	社会と調査, 10, 121-121
Issue Date	2013-03-30
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/58228
Type	article
File Information	terasawa.pdf

Instructions for use

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

Column

「世界の調査／日本の調査」

台湾社会変遷基本調査（TSCS）

寺沢 重法（北海道大学大学院文学研究科助教）

世界最大規模の宗教調査データアーカイブスであるARDA（The Association of Religious Data Archives）には約1,000点の宗教調査データが二次データとして寄託されている。その多くはアメリカや欧米諸国を対象とした調査だが，非キリスト教・非欧米を対象とした調査も徐々に増えている。たとえばエジプトとサウジアラビアの若者を対象としたYouth, Emotional Energy and Political Violence: The Case of Egypt and Saudi Arabia Survey 2005などが挙げられる（若者の宗教性というテーマについてはNational Study of Youth and Religionというアメリカにおけるパネル調査が興味深い）。

ARDAに寄託されているアジアの宗教のデータの中で，一際目立つのが今回紹介する「台湾社会変遷基本調査」（TSCS）の宗教モジュールである（台湾の中央研究院社会学研究所が実施）。TSCSはアメリカのGSSを模範として1984年に開始し，その後，家族や階層などのさまざまなモジュールがほぼ5年のローテーションで毎年行われている。対象地域は台湾全土，標本数は毎回約2,000人である。宗教モジュールは94，99，2004，09年の計4回実施されており，台湾の約15年間の宗教状況が把握可能である。調査票と集計結果報告書，データセットはすべてダウンロード可能である。

近年の宗教社会学では東アジアの宗教の実証研究の必要性が指摘されている。しかし，日本も含め，各地域の実情に根差した質問を含み，かつ利用可能なデータはあまり蓄積されていない。しかしながら，TSCS宗教モジュールには，台湾の宗教状況に根差した豊富な質問項目が設けられている。たとえば，2009年の調査票では，祖先祭祀，気功，瞑想，風水，インターネット占いなどの実施状況や宗教テレビ番組の視聴状況が質問されている。さらに「慈済会」などの大規模仏教教団への所属状況もたずねている。宗教意識については，「供養されない死者は現世をさまようと思うか？」「死者は子孫によって供養されるべきだと思うか？」など台湾の祖先観・死生観を踏まえたさまざまな質問が設けられている。そしてこれらの質問に加えて，基本属性やさまざまな社会意識・行動に関する設問もあるため，台湾における宗教と社会階層・社会意識の関係が検討可能である（宗教以外のモジュールにも宗教関連の基本的設問が含まれている）。

さらに，その公開性ゆえに，近年はTSCSを用いた実証的宗教研究が徐々に増えつつある。たとえば，TSCSのHPの利用論文検索で検索してみると，宗教経済モデルを用いた宗教行動分析や宗教とさまざまな社会意識や行動の関連を扱った論文が検出される。後者については教育アスピレーション，主観的健康観，民主主義的態度，抗議行動参加，再分配政策への評価などと宗教との関連が取り上げられている。いずれも欧米の宗教社会学の議論を踏まえながら，台湾社会のユニークな特徴を描き出している。今後もTSCS宗教モジュールは，台湾の宗教研究のみならず，東アジアの宗教比較研究においても重要な役割を果たしていくのではないだろうか。

［付記］ 本稿は筆者が中央研究院社会学研究所の訪問学人（2012年7～9月）として行った研究成果の一部に基づいている。